

## 演目一覧

<p>しまぶんらく <b>島文楽（一宮市）</b></p>	<p><b>島文楽保存会</b></p>
<p>一宮市島村に伝えられた、人形芝居（人形浄瑠璃）です。</p> <p>慶応3年（1867）、葉栗郡大毛村（現一宮市大毛）の野々垣仙右衛門等が、現岐阜市芥見の渡辺常助から人形を買い受けました。しかし、若者たちが夢中になり家業手伝いもしないことに親たちが立腹し、明治の初めに葉栗郡島村（現一宮市島村）へ譲りました。譲り受けた島村在住の森嘉助、彦坂嘉左衛門、岡本藤右衛門等の有志が、大阪文楽人形遣いの豊松清十郎・加藤要、真桑文楽（岐阜県本巣市）の桑原清十郎等に指導を受けました。</p> <p>現在の人形は、明治初年に岐阜座から購入したもの、名古屋の朝比奈某から購入した「天保2年」銘の人形など百数十点になります。</p> <p>島文楽は市の無形文化財、島文楽人形36体は市の有形民俗文化財に指定されています。</p>	
<p>しんちややかいとりのうゆうかぐらたいこ <b>新茶屋海東流神楽太鼓（名古屋市）</b></p>	<p><b>新茶屋神明社神楽保存会</b></p>
<p>尾張南西部の農村地帯では、江戸時代より、秋の大祭で神楽屋形を引き出し、五穀豊穡と豊年万作を祝って村中を回る行事があります。そこで、神楽太鼓が披露されます。</p> <p>神楽太鼓には、座して打つ太鼓と、立って打つ太鼓演奏があり、座して打つ太鼓は、檜製の撥を回転させたり、飛ばしたりして打つ曲技が見所です。</p> <p>立って打つ長胴太鼓は、屋形の上に置かれ、太鼓の皮は破れる寸前まできつく張ってあります。竹を細く割った撥で打つと、非常に高い音が鳴り響き、秋の晴天時には、一里先まで響き渡るといわれています。</p> <p>今回は、主に座して演奏する太鼓で、曲目は「神楽太鼓」、「四つ節」、「綿寄せ」「森津」の4曲を演奏します。</p>	
<p>のうだとくわかまんざい <b>能田徳若万歳（北名古屋市）</b></p>	<p><b>能田徳若万歳保存会</b></p>
<p>北名古屋市の能田地区に伝えられてきた御殿万歳で、才蔵が打つ鼓のお囃子に、太夫が扇で舞うという祝福芸です。鎌倉時代に長母寺（現名古屋市東区）の名僧、道暁（無住国師）に、味鋤村（現名古屋市北区）の安部朝臣有佐の次男である徳若らが陰陽の道を学ぶかたわら万歳歌を教わったのが、徳若万歳の起源とされています。</p> <p>明治の初め頃、現あま市甚目寺町の桂五郎から、現北名古屋市能田の長瀬幸右衛門など数十人が徳若万歳を習い、これが今日の能田徳若万歳の始まりであるとされています。</p> <p>演目には「陰陽五穀の舞」「さっかゝ踊り」「七福神ばやし」があり、中央の太夫と脇の才蔵達、3～7人で演じます。また、万歳の口上は能田徳若万歳の大特色のひとつです。</p>	



いちばくときわしやまつりばやし  
市場区常磐車祭り囃子（常滑市）

常磐車を守る会

常滑地区の祭礼では、6台の山車が一同に揃い、地区内を曳き廻します。その中の1台が市場区の常磐車であり、そこで祭囃子（山車囃子）が演奏されます。

祭囃子は、「道行き囃子」と「山車囃子」に分かれ、さらに、「山車囃子」は、「昼囃子」と「夜囃子」に分かれます。

「夜囃子」にはかねの音が入ることが特徴的です。祭礼当日の夜には、常磐車は赤い提灯に彩られる中、「夜囃子」が賑やかに奏でられ、祭りの雰囲気もますます盛り上がります。



やまなかはちまんぐう  
山中八幡宮デندنガッサリ（岡崎市）

山中八幡宮デندنガッサリ保存会

山中八幡宮に古くから伝わるお田植え神事です。

歌詞の初めに、「デندن（田んぼ田んぼ）でカッサリ（親しくする、合祭・交会）」という意味の「デندنガッサリヤー」と唄い出すことから「デندنガッサリ」と言われています。

前歌・後歌・せりふ・所作により年間の農作業を表現し、天候の恵みと稲の豊作を祈願します。

豊作を表す大鏡餅を鎌に見立てた小餅で刈り取り、牛の背に載せ蔵へ運び込むとき、豊作のため牛が重さに耐えきれず倒れる所作が特徴的です。

そして、奉納を終えてその場で大鏡餅を細かく切って参拝者に餅投げをします。この餅を食べると1年間無病息災で過ごせると言い伝えられています。

古くから伝わる神事で、素朴さの中に郷土農民の魂が感じられます。



じしぜにだいに  
えんちょ獅子・銭太鼓（高浜市）

高浜えんちょ獅子保存会

高浜市の森前地区で伝承されてきた、二人立ちの獅子舞です。

資料によると、享和3（1803）年には、当時の高浜村の各組が雨乞いで獅子を奉納したとされています。近年実際に雨乞いのために披露したのは、平成6（1994）年の大渇水の時、明治用水土地改良区からの依頼により獅子舞をした夜に、少し降雨があったということです。

現在伝わるえんちょ獅子の演目は、「背中合わせ（立）」、「横ダケ」、「ヒヤラヒヤラ下り」、「ネジ肩」、「宙ゲリ」、「肩車」、「背中合わせ（両膝付け手離し）」の7種です。またお囃子は「宮入り」、「銭太鼓」、「オンパコヤー」、「獅子の出」、「獅子の舞」の5つです。

獅子が2人ペアでアクロバットに動きます。迫力ある演舞をご覧ください。また、お囃子や、着飾った子どもたちによる銭太鼓踊りにも注目してください。

